

平成 29 年度第 5 回 計画検討部会 議事概要

平成 29 年 9 月 21 日（木曜日）18 時 30 分～20 時 00 分まで
札幌市役所本庁舎 8 階 1 号会議室

【出席者（50 音順）】

計画検討部会委員：浅香委員、石橋委員、上田委員、北川委員、重泉委員、杉田委員、
永井委員、長江委員、原田委員、牧野委員、増田委員

事務局：松原障がい福祉課長、中田企画調整担当課長、安田自立支援担当課長、
唐嶋田在宅福祉係長、福井発達障がい担当係長、
松下コミュニケーション支援担当係長、樋口事業計画担当係長、
鈴木個別支援主査、堀井給付管理係長、宮野運営指導係長、高木

※発言者の敬称略

【議題 1 さっぽろ障がい者プラン見直しに係る意見交換会の開催結果について（報告）】
報告事項のため、質疑なし。

【議題 2 さっぽろ障がい者プラン(障がい者計画部分)の本文案等について】

● 分野 4 雇用・就労の促進

牧野委員) 最近、特に思っていることとして。就労移行については、障がい者枠が増えてきており、札幌市社会福祉協議会でも障がい者枠の募集があったことから、誰か良い人がいないか聞かれた。

周囲の人が働けない理由が一致しており「そこに通う方法がない、雪が降ると通勤できなくなり、制度的にヘルパーも使えない」というものであった。

札幌市特有の課題のため、障がい者の雇用や就労を進めるうえで、何か手立てを考えてほしい。

札幌市) 冬の移動が困難であることは、そのとおりだと思う。札幌市でも障がいのある人の採用枠があるが、自力で通勤できる人、という条件付きになっている。牧野委員の意見はこれからの検討材料とさせていただきたい。

浅香委員) 一気にステップアップは難しいと思うが、札幌市身体障害者福祉協会でも引き続き声を上げていく。

牧野委員) 移動に負担があり、働きたくても働けない現状があることを知ってほしい。

永井委員) 自立支援協議会でも同じ課題があり、生活環境の整備にある福祉のまちづくり推進会議が多様な機関が入った会議とのことであるため、ぜひ、こういった推進会議でも審議してほしい。

重泉委員) 障がい者雇用における移動の問題はなかなか進まないのが現状。就労支援部会でも検討している課題でもある。

東京の事業所から在宅雇用を進めたいとの話があり、ハローワークも協力して求人を出したが、誰も応募してこない。

なかなか外出できないため、情報が得にくいのもかもしれないが、インター

ネットでも求人情報は見ることができる。

在宅も働き方の一つとして、部会で検討している。

牧野委員) 残念ながら、障がい者の中には働く意欲が低い人もおり、一度生活保護をもらうと、結局その生活が楽になる、という声もある。意欲を高める取組も必要である。

重泉委員) 在宅雇用の場合、6時間勤務となるが、育児やヘルパーが入る時間を休憩時間として管理してくれるなど、配慮が行き届いている。こうした事例を提供すると意欲を高めることに繋がるかもしれない。

長江委員) 息子が高校を卒業し、働き始めたが、友達の中には既に辞めた子もいる。働く意味というものを高校の時に教える必要があると考えており、働く意味としては「遊び＝余暇」が大切である、余暇を楽しむ⇒お金を使う⇒働いてお金を得る⇒余暇を楽しむ、という流れが意欲を高めるのであり、仕事と家の往復になると働く意欲は薄れてしまう。

増田委員) 難病連の臨時職員の就職先について、重泉委員に相談したところ、在宅の仕事を紹介してもらい、内容を見てみると、ヘルパー時間の管理など、とてもしっかりしていた。東京の会社であるが、実例として補足する。

● 横断的分野2 生活環境の整備

石橋委員) バリアフリーとユニバーサルデザインの説明について、事務局案では建物などに限定した書き方をしているが、建物などに限定せずとも良いのではないか。

札幌市) 検討させていただく。

● 障がい等への理解促進

増田委員) ヘルプマーク・ヘルプカードの文言について、浅香部会長の意見を取り入れたことに感謝する。ただ、意見交換会の時に、ヘルプマークを悪用した事例が出ていたかと思うので、そのことについて、もう一言・二言くらい文言を追加してほしい。

札幌市) 意見交換会でも回答したが、より多くの人が使えよう、拳証書類の提出は求めないこととした。青森では拳証書類の提出を求めると聞いているが、札幌市では他の自治体からも悪用などに関する情報収集を行い、目立った悪用事例はないという結果決めたものである。

なお、本日(9/21)の市長記者会見でも発表した。札幌市では平成29年10月18日に導入する。周知啓発については、札幌市とパートナーシップ協定を結んでいるアインホールディングスの薬局でも配布することになり、ポスターを求める声も多い。

また、北海道の導入を正式に発表したことから、交通事業者についても引き続き普及啓発の協力について交渉をしていきたい。

長江委員) ヘルプマークについて、これも小学校の総合学習の時間で取り上げられないか。大人にはなかなか響かなくても、自分の子どもが学んできた成果を親が聞けば広まり方は違うと思う。

牧野委員) ヘルプマークについては、参加している委員会でも伝えていこうと思ってい

る。

牧野委員) ヘルプカードは、団体が作ったものもあるかと思うが、札幌市独自のものなのか

札幌市) 他の自治体のヘルプカードを参考にしながら、使いやすい様式として作成したものだ。法令で決まっているものではない。

増田委員) 団体にまとめてほしいという場合はもらえるのか。

札幌市) これからお知らせさせていただくが、まとめてお渡しすることはできる。ただし、使用は他の市民との平等の観点から10月18日以降としてほしい。

浅香委員) どのような制度であれ、悪用する人は必ず出てくる。モラルの問題もあるため、全てを取り締まれるわけではない。

● 分野3 療育・教育の充実

北川委員) 保育園の先生から、適切な支援を受ける環境の整備は良いことだが、地域参加、インクルージョンといった要素も含めて考えてほしい、との話があった。

インクルージョンという言葉を加えてほしいが、原田委員に質問で、横文字でない方が良いか。

原田委員) 横文字になると読めない仲間がおり、自分自身も口で言うときに上手く読めず相手に伝わらないこともあり、そこで話が詰まってしまう。このため、横文字を入れても良いが、()書きなどでわかりやすい言葉で補足してほしい。

北川委員) では「皆で支え合う」とか「包み支え合う」などの日本語で書いてほしい。

【議題3 第5期障がい福祉計画の成果目標(案)について】

【議題4 障害福祉サービス等のサービス見込み量(案)について】

重泉委員) 自立支援協議会でも話題になったが、例えば地域移行者数6%を目指す、という数字は良いとしても、達成できなかった場合に何が原因だったのかの分析をしてほしい。今の文言だと目指すだけで終わってしまう気がする。

また、サービス見込み量については、ヘルパーが足りないと言われている中、実績分しか使っていないのではなく、ヘルパーが足りないが故に使えていないのが現状ではないか。

杉田委員) 重泉委員の言っていることはそのとおりであり、中にはヘルパーが足りずに事業所を辞めるといったところも出てきている。

重泉委員) 時間数についても、それだけしか使えなかったのではないか。ニーズをどれだけ把握しているのか、把握する気があるのかお聞きしたい。

札幌市) ニーズは把握したいと考えている。その方法については検討させていただきたい。

重泉委員) このあたりの情報は相談支援部会が詳しいため、相談支援部会と連携・連動して、どのような調査が良いのか、進めてほしい。

札幌市) 今後ともよろしくお願ひしたい。

北川委員) 児童発達支援センター等、設定しない目標があるが、プランに設定しなければ新規を受け付けないということはあるのか。

札幌市) プラン自体が予算と連動しているわけではないため、プランに書いたからで

きる、書いていないからできない、という性質のものではない。

永井委員) PDCA サイクルについて、現状では見えてこないが、数値の見直し等について、システムを構築し実行するのか。

札幌市) 現プランにおいても、PDCA サイクルは掲載しているが、上手く回っていないことについてお詫び申し上げます。

このPDCA サイクルについては、次期プランにも掲載し、施策推進審議会や自立支援協議会と連携したい。